第１回熊谷市荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会　概要

１　日　時　令和８年６月１６日（火）午後２時３０分から４時３０分まで

２　場　所　熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」

３　出席者　⑴　協議会委員　１７名　池邊このみ会長、上林功副会長、原邦夫委員、
橋本昌克委員、中村稔委員、佐久間文彦委員、
長澤元樹委員、松岡八起委員、江森勝行委員、
赤沼昇委員、磯山加代子委員、山田健司委員（代理）、
上田毅一委員（代理）、原山俊市委員、
大﨑幸恵委員、林昌己委員、富田義三委員
※上林功副会長はオンライン参加

⑵　事　務　局　総合政策部　部長
同スポーツタウン推進課

⑶　オブザーバー　都市整備部都市計画課
同公園緑地課
建設部河川課

⑷　委託事業者　パシフィックコンサルタンツ株式会社

４　傍聴人　１２名

５　概　要

○　挨拶（総合政策部長）、委嘱状の交付（机上配布）

○　委員、事務局、オブザーバー及び委託事業者紹介

○　会長について
本協議会の会長を学識経験者である池邊委員に決定した。

○　代理出席について
代理出席の可否を諮ったところ、反対する者はなく、欠席委員２名の代理出席が認められた。

○　請願団体からの資料配布について
事務局から説明後、配布の可否について諮ったところ、反対する者はなく、資料配布が認められた。

○　議事

⑴　副会長の指名
本協議会の副会長を学識経験者である上林委員に決定した。

⑵　検討状況の報告及び基本計画素案
事務局及び委託事業者から別添資料に基づき説明後、質疑及び意見を募った。

＜1.　検討状況報告について＞

【委員】：資料 p.5 において、Park-PFI の検討について記載があるが、導入する場合、収益施設設置のためさらに公園面積が狭くなることが懸念される。

⇒【事務局】:Park-PFI の検討は予定していますが、詳細な検討はまだしておりません。

【委員】: p. 10 において、本整備においてはハードとソフトの再整備を行うと記載されている。体育館や公園整備等のハード整備は今後話し合いにより決定をしていくと思うが、スポーツ誘致など公園の活性化に伴う事業等のソフト面については、庁内の組織で担当していく予定か。担当課単独で行うのではなく、部署を横断したプロジェクトチームを組織する等、全庁的に取り組むべきではないか。
⇒【事務局】: 詳細については今後検討いたします。
【委員】: 体育館と公園の連携が全国的に課題となっている。オープンスペースとの関係は考えていく必要がある。昨年度スポーツ基本法が改正され、「する・みる・支える」のほか「集うスポーツ」、「つながるスポーツ」が追加された。今後市の上位計画に含まれると考えている。スポーツに関わるだけでなく、スポーツをきっかけとしてつながるということが、本計画に大きく関わるのではないか。
⇒【事務局】:「集う・つながる」の追加を検討いたします。
【委員】: 意見のまとめとして分かりやすい。若い世代の意見を聴取したことも良い取組だと思う。一方で、アンケート調査において体育館利用団体から 9 件しか回答が得られていないことが残念である。
⇒【委員】: 全員にアンケートを取ると意見の収集が困難になるため、利用団体の代表者にアンケートを実施した。そのため、各団体で 1 件としてアンケート調査を実施した。(バスケ、バレー等で代表して 1 件として聴取している。) 現在体育館を利用している団体が 12 団体あるが、そのうち 9 団体に回答いただけたという結果である。数的に少なくみられるが、種目別でアンケートを取っているため、代表的な意見として捉えてもらえれば良い。
【委員】: 体育館の利用料金が高いという意見があるが、何と比較して高いかが不明瞭である。他の体育館と比較すると安いため、あくまでも WS の 1 意見として捉えて欲しい。
【委員】: 近年、市民施設ではキッズスペースやダンスのためのスペースなどが設けられることが多いが、体育館はスポーツ重視の体育館になっている印象を受ける。中学生アンケートでは、居心地の良い空間でくつろぐ、子どもがのびのびと遊ぶという意見が最も多いが、体育館の整備内容には反映されていない点が気になる。
【委員】: 地元の住民で、普段から荒川公園を利用している。遊具はあるが魅力はない。新たな整備により魅力向上するのではないかと期待している。地域の人にとっても親しみやすい公園にしたい。
【委員】: p. 13 における新しい体育館の規模に対する要望について、バスケコート 3 面以上の要望が多いとあるが、3 面を並べる場合ボリュームが大きくなるため、分割して整備する案は可能か。
利用団体のニーズを調査していると思うが、天井高についても聞いておくべきではないか。一般的な体育館であれば 12.5m 以上確保するとあるが、バスケコートは 8m 未満確保されていれば問題なく、バレーボールも大会の仕様によっては 10m 前後で良いと

ある。ボリュームの小さいコートに抑えることができるのではないか。
⇒【事務局】大会で 3 面同時に使用して開催することを想定しています。現状コートを詰めて整備することは考えておらず、基準の間隔での 3 面整備を検討しております。
【委員】: バスケコート 3 面を 1 つのメインアリーナに整備する場合、プロ仕様のセンターコートにする、可動観客席を置く、車いすラグビーや、フットサルコートに活用するなど、大きなコートの活用方法はいくつか考えられるが、そういった利用を考慮した上で、整備面数は検討すべき。
P. 18 において、駐車場台数確保が公園の大部分の面積を占めている印象を受けた。交通の便が良いことを考慮すると、必要な駐車場台数は車いす利用者用に限定した台数に抑えても良いと考える。
車いす利用の駐車場も毎回埋まるわけではないため、マルチパーパスコートにしても良いのではないか。普段はコートとして利用し、イベント等では駐車場としての開放をすることも考えられる。駐車台数の規定は何かあるか確認したい。
⇒【事務局】: 駐車場は現状 70 台のため、同等台数の確保として設定している。ただ駐車場台数は少ないといった意見があることから、南側の河川敷における駐車場が整備されることを踏まえ、そこを活用することを想定している。
【委員】: 現状駐車場は足りておらず不便という意見がある。駅から近いから駐車場は不要と判断するのではなく、川沿いの駐車場は遠いため、体育館に整備が必要という考え方とするべきである。利用者が増えるため車で来る人が増えることが予想され、駐車場の整備は必要だと考える。
【委員】: 高齢者やバリアのある方への配慮は必須だが、他で負担できる機能は外に出した方が良い。また、敷地に限りがある中、駐車ますを確保するとなると公園側に負荷がかかる。近隣からのアクセスを工夫すると良いのではないか。
【委員】: 体育館への送迎で長時間の駐車場利用は必要でないだろう。駐車場はできる限り少ない方が良いと考える。
【委員】: 障がい者スポーツを取り入れている時代であり車いすラグビーを実施すること、現在行っているスポーツ大会については市民体育館で 3 面、大里体育館で 2 面と分けて実施などしているため、バスケコートが 3 面あると多様な利用方法が考えられる、などの意見より、利用団体から 3 面の需要を得ている。そのため多様な使い方を可能にすることを想定し、バスケコート 3 面の要望をしたと記憶している。また、駐車場に関して、緑を残すことは大切だが、スポーツに親しめる拠点になって欲しいという思いもあることから、駐車場台数は一定数確保が必要である。
【委員】: 限られた敷地の中で、利用の仕方などを詳細に設定したほうが、民間事業者は柔軟な提案ができると考える。
【委員】: 荒川公園と体育館の一体化ということが鍵となる計画である。市民のための公園なので、多くの方に利用してほしい。そのため、体育館だけでなく公園利用者も使うための駐車場が必要である。

【委員】: 市民の方が使うイメージを持った上で気軽に使える駐車場の検討をして欲しい。
また、大きな大会の実施をイメージしていると思うが、かつて大規模なイベントは越谷の体育館で実施していた。今回熊谷市で大規模の体育館を作った場合、そして大規模な大会を誘致する場合、庁内のどの課が担当するか。また、市民体育館は市民が利用できるよう開放することを想定しているか。
また、現状 1,000 席を確保しており、2,100 席に増やした場合、座席数を拡充した規模に当たるのかお伺いしたい。
⇒【事務局】: 大会を誘致できる体育館にしたいと考えている。予約形態は今後、日本中学校体育連盟や、全国高等学校体育連盟、スポーツ協会と協議した上で決定していく予定である。
また、決定ではないが 2,000 席を設ける想定をしており、現状より増やしたいと考えてる。
【委員】: 観客席数を多く取れることは利点だが、2 面でも足りるのではないか。天井高の話もあったが、規模拡大において空調設備も膨大になる。環境配慮指針より、専門の設備が必要になる。ランニングコストについても、空調整備を考慮して検討すべき。稼働率が高くない場合、1 面利用するために全面の空調の稼働は非効率である。
【委員】: 適正な観客席規模については、公式の試合を誘致できるか含めて考えた際に検討していくことになるだろう。観客席は日常時は使い道がないことが課題である。北海道のよつ葉アリーナの事例では 2 階観客席が可動席となり、日常時も観客席を活用できる事例である。適正な観客席数を考えると同時に、観客席スペースの利活用も検討できると良い。
駐車場について、スポーツコンプレックスの考えにおいて、周辺のまちづくりと連携すべきという考えもある。駅周辺は駐車場が多かった印象がある。公園に駐車場スペースを割くのではなく、周辺の駐車場と連携するのはどうか。特に D 案にある青空駐車場スペースも、運動ゾーンの一部としての利用もできるのではないか。
【委員】: 体育館を中心に議論になっているが、公園と体育館の周辺には図書館や文化会館もある。複合的に計画を立てることで地域の価値となる計画になるのではないか。文化会館も駐車場不足が言われているため、駐車場は必要である。また芝生広場があっても最近の子どもたちは遊ばないのではないか。掛け算をすることで次の時代の提案にできないかと考えている。
⇒【委員】: 芝生広場があれば子どもたちは使用する。裸足で遊ぶ子どもたちと、その子どもたちを見にくる高齢の方もいることで、賑わいのある公園の事例もある。
＜2. 基本計画素案について＞
【委員】: メインアリーナが大きく、荒川公園自体が窮屈になっている印象を受ける。また駐車場も付随して大きい印象である。公園と体育館を区別するのではなく、共用部分をまとめるなど、公園と一体となったアリーナを作るためにはどうするかを考える

べき。
⇒【委員】: 同意見である。並木道は保存されているが、アリーナで公園を占めている印象を受ける。

【委員】: 体育館継続利用に配慮してメインアリーナとサブアリーナを別々に設ける点はポジティブな印象を受ける。メインアリーナとサブアリーナの地上高について、説明が出ていないが、どれほどの高さになるのか。
⇒【事務局】メイン約 20m、サブ約 15mを想定しています。
【委員】: ①②案ともにメリットデメリットがあり、また、観客席数について、大会実施に当たり 5,000 席が必要となる大会もある。「憩う」、「つながる」、「集う」を考えた整備を行うべきである。
【委員】: 体育館の上に緑の遊び場を作るのは良い案である。過年度案では現在計画している案における屋根付き広場のあたりまでを体育館が占めており、シンボルロード（※園内南北の通路）が潰されてしまう案だった。それが残されたのは良い。またマイクロバスが上り下りする場所を含めた検討を行って欲しい。体育館利用者にも住民にとっても良い計画を策定してほしい。
また、観客席数の増加に伴い駐車場も増やさなければ交通渋滞が発生するだろう。対処が必要である。
【委員】: サブアリーナ 2 面がつながっていても、離れて配置されていても、コート間で移動ができれば利用上問題はない。計画上では 5 面の整備案となっているが、トータルで何面必要であるか整理が必要である。サブアリーナ 2 面がかなり大きい印象を受けたが、工事期間中も現状利用を継続するためと理解している。
【委員】: 屋根付き広場の存在はありがたい。夏場は暑いため、建物があることが好ましいが、屋根付きの空間があるだけでも十分である。
【委員】: 暑さ対策のために建物で囲われることもよいが、治安の問題もあるため、屋根付き広場のようにオープンであることは大切である。また、ゲリラ豪雨が発生した際にも逃げ込める場所になる。
【委員】: 先ほどペデストリアンデッキの話が出ていた。外から人が入ってきた際の公園との一体感を感じられる事例として、ループアリーナの事例を紹介する。市民利用に重きを置いた体育館である。体育館のボリュームと公園との関係を積極的に考えることができると良い。その際に、スロープやペデストリアンデッキが公園と体育館をつなぐ存在になるのではないか。

⑶　今後の進め方

事務局から別添資料に基づき説明後、質疑及び意見を募った。

・本会で議論した内容を、7 月開催予定の第 4 回ワークショップにおいて説明し、今後に向けた議論を行う。

・第 2 回協議会において、ワークショップの結果を報告した上で、協議会として考え

る最適な基本計画案を決定する。

【質疑及び意見】なし

⑷　その他

会議全般における質疑及び意見を募った。

【質疑及び意見】なし

○　その他

・第２回会議は、８月又は９月に開催する。

以上